

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 広島常光福祉会
施設名	サンヒルズ保育園
報告者(役職)	新舛 志津子(園長)
住所・連絡先	広島県広島市東区中山上1丁目23-1
	☎ 082-289-7688
	E-mail sun-hoiku@h-joukougukusikai.jp

○タイトル(保育計画)

ようこそ! 絵本の世界へ

○主な助成備品

様々なジャンルの絵本 ・ 絵本棚 ・ ソファ

1. 保育計画策定の目的

本園では「生きる力の育成」をめざし、「心や感性の豊かさ」を大切にしたい保育に努めています。

「心を育てる保育」を進めるには乳幼児期からの絵本体験が欠かせないと考え、年齢を問わずに楽しめ、子ども達が大好きな「絵本の読み聞かせ」に取り組むたいと思いをしました。

子どもと絵本の良い出会いを作ることは、専門性を持った私達保育者の重要な役割だと考えています。購入の際は、絵本の世界に引き込まれ、様々な感情体験や心が揺り動かされる内容の絵本、また、想像力や豊かな心を育む絵本、更に小学校以降の学習の基盤となる力を育む内容など様々なジャンルの絵本を選ぶように心がけました。

また、保護者や地域の子育て家庭へ向けて、絵本の重要性や意義を発信するために、「読書アドバイザーによる育児講演会」、「園児の絵本持ち帰り」、「地域家庭への絵本の貸出し」に取り組みました。親子で絵本を楽しみながら心を通わせるひと時を過ごし、心豊かな子どもの育成をめざしたいと考えています。

2. 具体的な実施内容

①保育園での読み聞かせの充実をめざし

・0~2歳児

朝の集いや帰りの会の前、また、いろいろな遊びや活動前の導入として、毎日2~5冊の絵本を読んでいます。子ども達の大好きな絵本は勿論のこと、いろいろな絵本に触れたり親しんだりしながら興味が広がるよう願っています。

読み聞かせの時には、目を合わせ、時には身体に触れながら、ゆっくり話しかけるように、子ども達のペースにあわせながら読むことを大切にしています。



0 歳児



1 歳児



2 歳児

・3～5 歳児

毎日、2～3冊の絵本を午睡前や帰りの会などで読み聞かせています。読む絵本に関しては、保育者が意図的に様々なジャンルの絵本を選ぶこともありますが、当日のお当番さんが選んだ好きな絵本を読んであげるなど工夫もしています。「ぼくもこの本好き!」「～ちゃんは、こんな本が好きなんだね」など、皆で絵本の世界を共有しながら楽しんでいきます。また、「自分の好きな絵本を先生に読んでもらえる!」と、当番の日を楽しみに待ち、読んでもらった満足感で当番活動にも意欲的に取り組んでいる子ども達です。

・生活発表会の劇あそびにむけて

日頃より親しんだ大好きな絵本を基に生活発表会の劇あそびに取り組みました。

(1 歳児)「ぐりとぐら」

繰り返しの場面を友だちや保育者と一緒に楽しみ、簡単なストーリーから劇あそびへ発展させました。

(2 歳児)「もりのおふろ」

自分のなりたい役になり、友だちや保育者と一緒に簡単な繰り返しの言葉を交わしながら楽しみました。

(3 歳児)「ももたろう」

登場人物や自分の役が分かり、簡単なセリフを友だちと一緒に交わしながら楽しみました。

(5 歳児)「ヘンゼルとグレーテル」

登場人物の心情を理解し、セリフや動き、小道具なども自分達で考え、子ども達が中心になって創り上げた劇を楽しみました。



②絵本コーナーの設置（3歳以上児組）

自由遊びの時間などソファーに座り、ゆったりとした気持ちで好きな絵本を選び、一人で読んだり、友だちと共有しながら読むなど、それぞれに絵本タイムを楽しんでいます。コーナー設置当初は、絵本を見たまま放りっぱなし、雑なページめくり、返却場所の間違いなどが多く見受けられました。絵本の取り扱いについて子ども達と話し合い、返却場所も分かりやすくジャンルごとに色分けするなど工夫してみました。次第に絵本を汚したり、破ったりしないよう丁寧に取扱うことの大切さや、決められた場所へきちんと返すなどの意識が高まり身につけてきました。



好きな絵本をじっくり読もう 見て、見て～！一緒に読もう！ シールを見て間違えないように返そう

③絵本の持ち帰り ～親子でコミュニケーション～

毎週木曜日、お気に入りの絵本1冊を選び、絵本袋に入れて家の人に読んでもらうことを楽しみにしながら持ち帰り、次の週の火曜日に返却しています。その間、大好きなお家の人のぬくもりを感じながら、肉声によるコミュニケーションやふれあいの場として絵本タイムを楽しんでもらっています。

(保護者アンケートより) 63世帯中39世帯回答 回収率61.9%

読み聞かせの回数について

回数	毎日	週3回以上	週1～2回	月1～2回	していない
世帯数	10	9	17	2	1

読み聞かせの所要時間について

所用時間	5分以内	5～10分	10～15分	20～30分	30分以上
世帯数	7	24	7	0	0

読み手について

読み手	母	父	祖母	祖父	兄姉	その他
世帯数	37	24	5	1	7	2(本人)

貸出しの回数について

貸出し回数	今まで通り週1回	毎週2回	毎月2回	なくてもよい
世帯数	36	1	2	0

ご意見やご感想

- ・今までは遠い所にある図書館まで行っていたが、行かなくてすみ助かっている。
- ・毎週楽しみにしており、親も知らなかった絵本と出会い、いい機会だと喜んでいる。
- ・家で購入する本の参考になる。気に入った本は、字は読めなくても声に出して読み、喜んでいるので続けてほしい。
- ・その本を選んだ理由を教えてくれ、毎週1回以上は親子で本を読んであげる良い機会となっている。読むことで子どもとの会話が増えた。
- ・今日ではどんな本かな？と子どものブームや興味を知ることができ有難いと思う。
- ・字がスラスラよめるようになり、絵本タイムを楽しんでいます。持ち帰った絵本が破れていたりするのが残念です。親も忙しいが絵本の管理確認はしないといけない。
- ・家の絵本では、いつも同じ絵本になってしまうので、貸出しがあるのは良い。
- ・親子で読む機会が増え、いつのまにか少しカタカナが読めるようになり驚いた。
- ・ボロボロになった絵本があり読むのに困った。「〇〇がでてくるよ」と絵本を読むことで子どもとの会話が増え、いろいろな話ができている。
- ・子どもが本を破ったり、乱暴に扱わないかなど神経を使った。0, 1歳児にとっては、絵本の大切さがわかる年齢になってからの持ち帰りが良いと思う。

④読書アドバイザーによる絵本の読み聞かせ

読書アドバイザーの方に来ていただき、保護者や地域の子育て家庭の方を対象に、「楽しい絵本タイム」と題して講演会を開催しました。子どもにとって、まずは、誰に読んでもらうか、お家の方が読んであげることが大切であると話されました。

アドバイザーによる読み聞かせに、保護者の方々は「大人になって読んでもらうことがなかったため、本当に嬉しかった。」と感動され、「子どもも同じですね。家でももっと読んで絵本タイムを大切にしたい。」との声が多く聞かれた。



⑤地域の子育て家庭にむけて絵本の貸出し ～地域につなぐ絵本の輪～

近隣の子育て家庭にも、是非、親子で絵本タイムを楽しんでももらいたいと思い、5月から3冊までを限度に2週間の貸出しを開始しました。利用者のほとんどが保育園の園庭開放（月1～2回実施）に来られた時に、子どもさんと相談しながら決めて喜んで持ち帰り、きちんと返却され、その時に次を借りて帰るという状況ですが、利用は、9世帯で伸び悩んでいます。

3. その成果と評価

- ・たくさんの絵本を寄贈していただき読み聞かせる中で、興味が広がり、集中して見る力や聞く力が育ち、語彙数が増えた。日常の生活や保育の場面でも反映され、話を聞く態度や集中力が身についてきた。
- ・絵本の貸出しが始まったことでお気に入りの絵本ができ、自由時間には自主的に絵本コーナーを利用する子どもや、友だちと誘い合い楽しんでいる姿などが多く見受けられるようになった。
- ・保護者からは、絵本を持ち帰ることで、いろいろな絵本を知ることができた。また、コミュニケーションも増え、子どもの言葉が豊かになったなど好評である。さらに、この取り組みを通し、職員も保護者の方々と触れ合う良い機会となっている。

4. 今後の課題と展望

- ・助成申込時には、降園時を利用した「親子で読書」を掲げていたが、実施する事で駐車場が込み合うため、今年度は未実施となっている。今後は、降園時に限定せず年齢別、曜日別など保護者の意見を参考にし、柔軟性を持って実施していきたい。
- ・低年齢児（1歳児）への絵本の持ち帰りでは、返却時に破れや汚れなどが多く見受けられ、家庭での絵本管理の難しさが感じられた。今後は、何歳児から持ち帰りを開始するか、または、それぞれの保護者の意向に添って実施するかなどを検討していきたい。
- ・保護者アンケートの結果、読み聞かせの回数が、約半数の家庭で週1～2回未満であった。絵本の管理の難しさも要因の1つと思われるが、この結果を踏まえ、来年度は、定期的に（4半期に1回）絵本の感想や、子どもの様子を書いてもらい、絵本タイムの情報共有を図りたい。また、毎月発行している園便りに絵本の読み聞かせのコーナーを設け、各クラスの取り組み状況を掲載し、読み聞かせの回数が増えることを願っている。
- ・地域の子育て家庭にむけての取り組みは、まだまだ知名度が低く利用者が少ない現状である。今後は、コンビニや病院へチラシの設置や掲示を依頼し、たくさんの人が読み聞かせや講演会へ参加したり、絵本の貸出し利用ができるよう呼びかけ、多くの家庭で絵本タイムの楽しさを共有してもらいたいと考える。

以上